

令和 2 年度

教育委員会の活動の点検・評価報告書

令和 3 年 9 月

尾鷲市教育委員会

目 次

1. はじめに

- 1. 点検・評価制度の趣旨・・・・・・・・・・P 1
- 2. 点検・評価の対象・・・・・・・・・・P 2
- 3. 評価の判断基準・・・・・・・・・・P 2
- 4. 尾鷲市教育ビジョン体系図・・・・・・・・P 3
- 5. 施策体系図・・・・・・・・・・P 4

II. 事業評価

- 1. 令和2年度主要施策の成果及び
実績報告書評価一覧表・・・・・・・・P 5
- 2. 令和2年度主要施策の成果及び実績報告書・・・・・・・・P 6～P 23

III. 教育委員会の活動状況

- 1. 活動状況・・・・・・・・・・P 24～P 25
 - ①尾鷲市教育委員会委員選任状況
 - ②教育委員会会議の開催状況
 - ③審議状況
 - ④審議された議案
 - ⑤教育委員会会議以外の主な活動

IV. 第三者評価（学識経験者の知見の活用）

- 1. 第三者評価委員・・・・・・・・・・P 26
- 2. 第三者評価委員の評価について
 - 山本委員の評価・・・・・・・・P 26～P 30
 - 湯浅委員の評価・・・・・・・・P 31～P 34

V. 教育委員による評価

- 教育委員の評価・・・・・・・・P 35～P 40

VI. おわりに・・・・・・・・・・P 41

I はじめに

1. 点検・評価制度の趣旨

尾鷲市教育委員会は、目指すべき教育として「尾鷲に誇りを持ち、自ら学び自らを磨き上げ、豊かな心をそなえ他者と協同し、自らのあり方や生き方を身につけ、健やかな体と体力をそなえた人」を基本指針に掲げ、子どもや市民一人ひとりの学びを大切にしたい楽しい学校、生きがいのあるまちづくりを目指しています。

そのため、「おわせ^{ひと}人としての人間性を育む教育」として『施策1. 就学前教育の推進』『施策2. 学校教育の推進』『施策3. 青少年の健全育成』、「おわせを誇ることのできる教育」として『施策4. 生涯教育の推進』、「時代の変化に対応するおわせの教育」として『施策5. 学校と地域の共創の推進』という5つの施策の取組を進めていくため学校教育・地域教育・家庭教育・社会教育など様々な角度から教育の充実・連携を図るとともに、伝統文化やスポーツ活動の充実・資質向上に向けて取り組んでいるところです。

そこで、これらの教育行政が十分に執行されているかどうかについて、教育委員自らが点検・評価する必要があるとともに、市民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させていくことが求められていることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、結果を議会に報告するとともに、公表しなければならないとされております。

そこで、教育委員会では、法の趣旨に則り、効率的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和2年度の事務事業について点検・評価を実施し報告書にまとめました。

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検・評価の対象

尾鷲市教育委員会は、平成25年3月に未来に向けて豊かで活力ある尾鷲市を築いていくために、今後10年間の本市における教育の基本的な方向性や重点施策等を示した「尾鷲市教育ビジョン」を策定しました。

尾鷲市教育ビジョンは「共創・共育・共感～次代を創る“おわせ人”づくり～」を基本理念とし、「尾鷲に誇りを持ち愛することができる人」「自ら学び自らを磨き続ける人」「豊かな心をそなえ他者と協同できる人」「自らのあり方・生き方を身につけた人」「健やかな体と体力をそなえた人」のおわせ^{びと}人づくりの実現を目指しています。

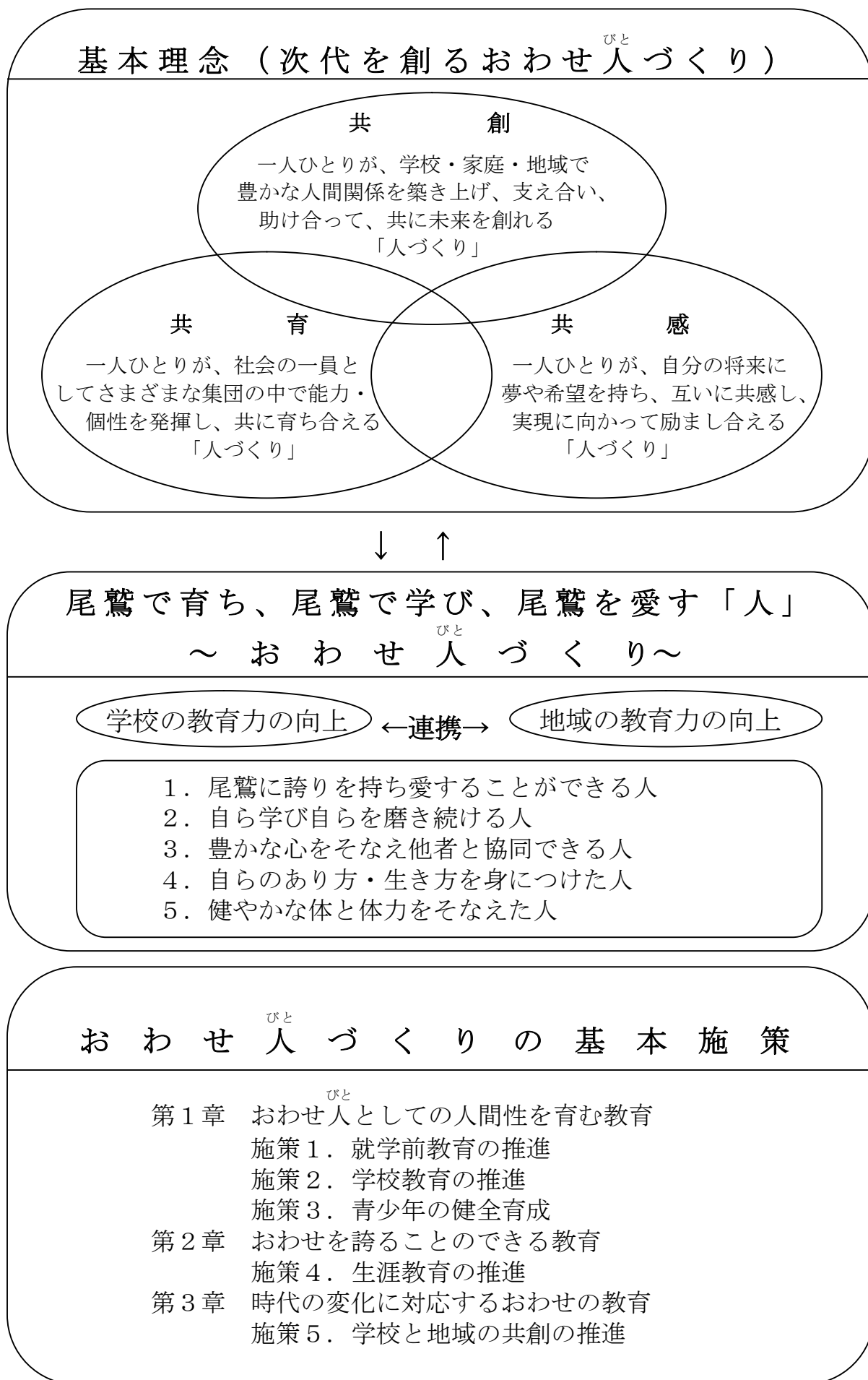
今回の評価にあたっては、尾鷲市教育ビジョンの主な取組の中から18の事業を選定し「主要施策の成果及び実績報告書」として、各事業について、目的・内容・成果の観点から評価を行いました。

3. 評価の判断基準

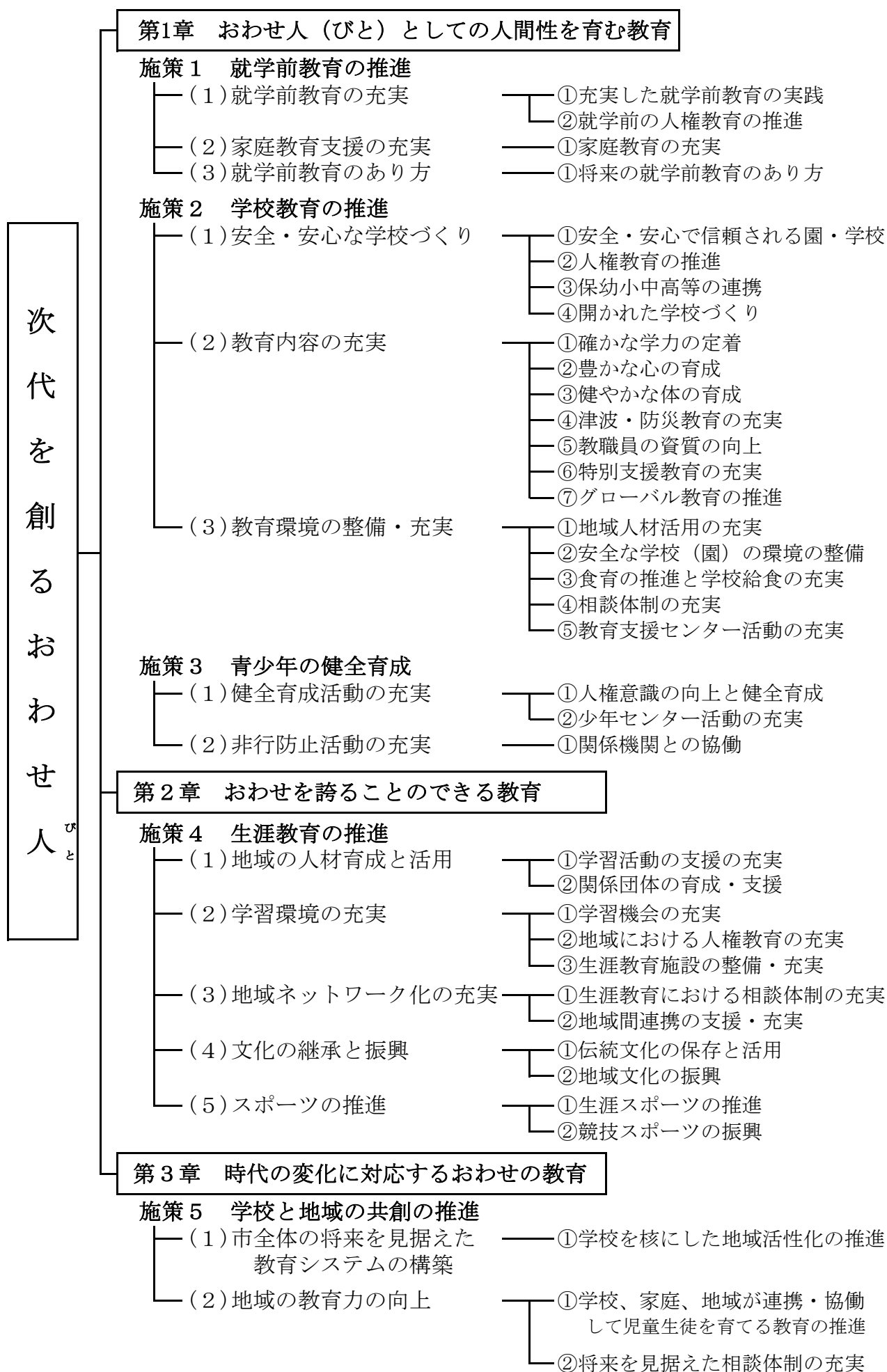
施策を構成する主な事業の実績を、以下の5段階の評価基準に基づき、達成状況、成果から総合評価を行います。

評 価	評 価 基 準
S	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。
B	目標を一定以上達成しているが、更に取り組む余地がある。
C	目標をあまり達成できず、改善の必要がある。
D	目標をほとんど達成できておらず、見直しの必要がある。

4. 尾鷲市教育ビジョン体系図



5. 施策体系図



Ⅱ 事業評価

1. 令和2年度主要施策の成果及び実績報告書評価一覧表

番号	主 要 施 策 名	評価	担当課
1	九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業	A	教育総務課
2	学校ICT環境機器整備事業	A	教育総務課
3	魅力ある学校づくり推進事業	A	教育総務課
4	奨学金貸付事業	B	教育総務課
5	ふるさと教育支援事業	A	教育総務課
6	子どもの学びと育ち育成支援事業	A	教育総務課
7	地域人材を活かした子育てHAPPY事業	A	生涯学習課
8	成人式事業	B	生涯学習課
9	放課後子ども教室推進事業	A	生涯学習課
10	公民館事業	B	生涯学習課
11	天文科学館管理運営事業	A	生涯学習課
12	図書館管理運営事業	A	生涯学習課
13	文化財一般保護事業	A	生涯学習課
14	郷土室保存運営事業	A	生涯学習課
15	少年センター事業	A	生涯学習課
16	文化会館管理事業	B	生涯学習課
17	スポーツ振興事業	B	生涯学習課
18	三重とこわか国体活動費	B	生涯学習課

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					学校教育の充実				
事業開始年度	平成１５年度									
対象	九鬼・輪内地区の児童・生徒及び園児									
事業の目的	九鬼・輪内地区における小中学生の通学手段の確保、及び地域間交流活動等を行う際の移動手段の確保を目的とする。									
事業の内容	①事業内容 ・スクールバス（3台）の運行管理業務 ・梶賀、曾根、古江、三木里、三木浦、早田、九鬼地区の小中学生の登下校時の運行 ・地域間交流活動等の移動時の運行 ②経費内訳 ・委託料：13,993,320円（自賠責保険料、自動車重量税等を含む）									
事業成果	九鬼・輪内地区の小中学生の安全な通学手段の確保及び遠距離通学の負担が軽減された。また、地域内での伝統行事、校外学習等における移動手段としての利用により、地域住民との交流を通じ、社会生活、郷土愛等を育む教育環境の充実を図ることができた。									
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	教育一般事務局費		
事業費（決算額）	13,994 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			13,994 千円
その他										

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	学校ICT環境機器整備事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			子どもの健全育成の推進				
	施策			学校教育の充実				
事業開始年度	令和2年度							
対象	児童・生徒							
事業の目的	急速な情報化が進む現代社会において、これからの次代を担う子どもたちが、生きていくために必要な情報活用能力を身に付けるICTを活用した情報教育の推進を図るため、学校のICT環境機器を整備する。							
事業の内容	市内小中学校(校務用コンピュータは幼稚園を含む)へICT環境機器を整備するため、リース契約を締結する。 ①事業内容 ○大型提示装置：普通教室1クラスに1台計38台 ○コンピュータ：学習者用コンピュータ教室に1クラス(160台) 特別支援教室(13台) 指導者用コンピュータ教室に1台(7台) 校務用教員各1台(130台)計310台 ○学習用ツール：ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト等を学習者用と指導者用のコンピュータへ導入 ○無線LAN：普通教室に整備 ○サーバ：セキュリティ、ユーザー管理用サーバの整備 ②経費内訳 機器借上料契約額：74,976,000円(60ヶ月分) 令和2年度分：8,747,200円(令和2年9月～令和3年3月分) ③期間 令和2年度～令和7年度							
事業成果	急速な情報化がすすむ現代社会において、次代を担う子どもたちが情報活用能力を身につけるための情報教育の推進をはかるため、ICT環境機器のリース契約を締結した。また、GIGAスクール構想の前倒しに対応すべく、尾鷲市学校ICT整備計画を改定し、学習者用コンピュータ、指導者用コンピュータ、学習支援ソフト、充電保管庫等を整備した。							
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	学校教育事務局費
事業費(決算額)	8,748千円							
財源内訳	国庫支出金				千円	その他特定財源		千円
	県支出金				千円	一般財源		8,748千円
その他								

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	魅力ある学校づくり推進事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					子どもの健全育成の推進				
	施策					学校教育の充実				
事業開始年度	令和元年度									
対象	児童・生徒									
事業の目的	学校の特色化、魅力ある学校づくりを進めるため、三重大ととの共同研究により、賀田小学校と輪内中学校をモデル校に位置づけ、小・中学校9年間を通じた英語カリキュラムを開発、児童・生徒の英語力、コミュニケーション力の向上により、グローバルな人材を育てる。また、教職員向けの研修会等を通じ、指導のノウハウを市内の小中学校に伝達し、市全体の英語教育の充実を図る。									
事業の内容	①事業内容 ・三重大ととの共同研究により、小・中学校9年間を通じた英語教育を充実させ、独自のカリキュラムを開発する。 ・授業参観、モデル授業を通して、指導法や教材活用に関する研修を進め、特に英語の指導経験が少ない小学校教諭に対し、重点的に助言指導を行う。 ・教職員を対象に、教材の活用法を学ぶための講習会、研修会を開催する。 ・地域の魅力を題材にした教材等を開発する。 ②経費内訳 ・委託料（業務委託料）：120,750円									
事業成果	・（株）mpiの教材を使って「フォニックス」の指導、「英会話たいそう」を通してフレーズの学習を進めた。アンケート結果から、ほとんどの児童生徒が英語学習を楽しんでおり、また英語の音やフレーズをすらすら言えると感じている。保護者からも「習ってきた英会話をおしえてくれる時、発音がとてもキレイでびっくりした」「ふだんの会話で、英語を少し使ったりするのが増えてきた。」という声も聞かれた。 ・賀田小学校において6回研究授業を行い、教師の指導力向上を図った。令和2年度はコロナ禍により、講師を招聘しての指導はできなかったが、三重大の大野准教授による助言や情報提供も活用しながら、全職員で研修に励み、指導力は大幅に向上した。									
予算科目	款	9	項	1	目	2	細目名	魅力ある学校づくり推進事業		
事業費（決算額）	121 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			121 千円
	県支出金					千円	一般財源			千円
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 121千円									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	奨学金貸付事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			子どもの健全育成の推進				
	施策			子育て支援の推進				
事業開始年度	昭和36年度							
対象	高校生・高等専門学校生・専修学校生・短大生・大学生							
事業の目的	高校・大学等へ進学する生徒で学資の十分でないものに対し、奨学金を貸与し、卒業後社会に貢献させる。							
事業の内容	①事業内容 ・ 勉学意欲があるにもかかわらず、経済的理由により高校・大学等へ進学が困難なものに奨学金を貸与する。 ②経費内訳 ・ 需用費（消耗品費）： 4,995円 ・ 役務費（通信運搬費）： 28,000円 ・ 貸付金（奨学資金貸付金）： 3,280,000円 【新規貸付】：400千円（2名） 大学：年額300千円×1名＝300千円 専修学校（途中退学）：年額100千円×1名＝100千円 【継続貸付者】：2,880千円（11名） 大学、専修学校（8名）：年額300千円×8名＝2,400千円 高等専門学校（2名）：年額180千円×2名＝ 360千円 高等学校（1名）：年額120千円×1名＝ 120千円							
事業成果	・ 高校、大学等へ進学する生徒に対して、奨学金を貸与することにより、保護者の経済的負担を軽減し、適切な修学環境の整備を図ることで、次代の社会を担う人材育成のための機会を保障することができた。 ・ 新型コロナウイルスの影響を鑑み、追加募集を実施したが応募者は無かった。							
予算科目	款	9	項	1	目	3	細目名	奨学資金貸付事業
事業費（決算額）	3,313 千円							
財源内訳	国庫支出金		千円		その他特定財源		3,280	千円
	県支出金		千円		一般財源		33	千円
その他	その他特定財源：奨学資金貸付金返還金 3,280千円							

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 教育総務課

事業名	ふるさと教育支援事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			子どもの健全育成の推進				
	施策			学校教育の充実				
事業開始年度	平成26年度							
対象	児童・生徒							
事業の目的	子どもたちが、ふるさと尾鷲に愛着を持ち続けるため、地域の人々の考え方や生き方から学んだり、自然や景観、歴史、伝統文化の体験など、郷土愛を育む「ふるさと教育」を充実させる。							
事業の内容	①事業内容 ・ 尾鷲の自然や景観、歴史、伝統文化などに触れる体験学習や地域教材を活用した学びを充実させる。 ・ 市民と共創し、地域の方々や様々な分野の達人を活用したふるさと教育を充実させる。 ・ ふるさと産業体験活動(ふるさとキャリア教育)を市民協力のもと実施する。 ・ 尾鷲以外の地域の文化や産業について見識を広め、将来の尾鷲のあるべき姿について考える。 ②経費内訳 ・ 小学校 需用費(消耗品費) : 68,211円 使用料及び賃借料(借上料) : 16,250円 ・ 中学校 需用費(消耗品費) : 6,000円 役務費(通信運搬費・保険料) : 6,240円							
事業成果	・ コロナ禍により、例年に比べできない事が多かったが、地域に学び、地域で育つ学校づくりを目指し、自然・文化・伝統等を題材にした学習を展開し、児童・教職員が地域の良さを認識するとともに、地域を大切にしたい思いを育むことができた。また、地域の方との交流を深めることができた。 ・ ふるさと産業体験活動についても、コロナ禍で職場体験ができなかった。							
予算科目	款	9	項	23	目	22	細目名	ふるさと教育支援事業
事業費（決算額）	小学校分84 中学校分12 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円		その他特定財源		96 千円
	県支出金			千円		一般財源		千円
その他	その他特定財源：ふるさと応援基金繰入金 96千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 教育総務課

事業名	子どもの学びと育ち育成支援事業																																		
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち																													
	政策					子どもの健全育成の推進																													
	施策					学校教育の充実																													
事業開始年度	平成26年度																																		
対象	園児・児童・生徒・教職員																																		
事業の目的	・ふるさと尾鷲を担い、創り上げていく「おわせ人」を育成していくため、教職員の指導力向上と授業改善を目指した絶え間ない研修、また、豊かな未来を切り開くための環境づくりと学校教育の充実をすすめる。 文化的・芸術的な催し物の鑑賞を通して、園児の豊かな感性や想像力を育む。																																		
事業の内容	①事業内容 ・「すべては子どもたちのために」という思いを共有・協働して、組織的に支え合う取組を推進する。 ・各教科において、話す・聞く・伝え合う・学び合うことを大切にした授業づくりを行う。 ・基礎学力の向上・定着・自己学習力の育成を目指した学習指導を推進する。 ・児童・生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを推進するため、学級満足度調査（QU調査）を活用し、「自立する力」「共に生きる力」を育成する取り組みを推進する。 ・幼稚園において、交流保育を行い、様々な友達とふれあい人間関係を広げる。また、本物の芸術（人形劇）に触れる機会をつくり、豊かな感性と想像力を育む。 ②経費内訳 <table><tr><td>・小学校</td><td>報償費（報償費）</td><td>: 6,000円</td><td>需用費（消耗品費）</td><td>: 314,640円</td></tr><tr><td></td><td>役務費（保険料）</td><td>: 5,950円</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・中学校</td><td>需用費（消耗品費）</td><td>: 449,760円</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・幼稚園</td><td>需用費（消耗品費）</td><td>: 52,440円</td><td>役務費（通信運搬費）</td><td>: 0円</td></tr><tr><td></td><td>委託料（業務委託料）</td><td>: 94,900円</td><td></td><td></td></tr></table>										・小学校	報償費（報償費）	: 6,000円	需用費（消耗品費）	: 314,640円		役務費（保険料）	: 5,950円			・中学校	需用費（消耗品費）	: 449,760円			・幼稚園	需用費（消耗品費）	: 52,440円	役務費（通信運搬費）	: 0円		委託料（業務委託料）	: 94,900円		
・小学校	報償費（報償費）	: 6,000円	需用費（消耗品費）	: 314,640円																															
	役務費（保険料）	: 5,950円																																	
・中学校	需用費（消耗品費）	: 449,760円																																	
・幼稚園	需用費（消耗品費）	: 52,440円	役務費（通信運搬費）	: 0円																															
	委託料（業務委託料）	: 94,900円																																	
事業成果	・QU調査を活用し、学級の子どもたちの思いや人間関係など、学級の状況を客観的データをもとに確認することにより、一人ひとりの居場所や思いをとらえ、学級経営の改善に役立てることができた。また、いじめ等の諸問題に対して未然防止の取組や迅速な対応ができた。 ・プロの人形劇団の演技を近くで鑑賞し肌で感じることができ、貴重な体験となった。また、交流行事として、大勢の友だちと一緒に観賞することができ、楽しさも増した。																																		
予算科目	款	9	項	2 3 4	目	2 2 1	細目名	子どもの学びと育ち育成支援事業																											
事業費（決算額）	小学校分 327 中学校分 450 千円 幼稚園分 147																																		
財源内訳	国庫支出金					千円		その他特定財源			千円																								
	県支出金					千円		一般財源			924 千円																								
その他																																			

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	地域人材を活かした子育てHAPPY事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	令和2年度									
対象	市民									
事業の目的	本市の「定住・移住促進」としての少子化対策事業「こころ豊かにしごとと子育てができる移住促進事業」の一環として、本市の豊かな自然と文化に恵まれた環境の中で、地域の子育て支援団体等の地域人材を活かし、子育て世帯に対するイベントを実施し参加してもらうことで、子育てのしやすさを感じられる地域づくりを推進する。									
事業の内容	地域における子ども支援・子育て支援に関わる団体や地元事業者等との連携のもと、本市ならではの特色を活かした地域ぐるみの子育て支援として、本読み子育ての取り組み（青空図書館）やお仕事体験など、子育て世帯が親子で楽しめるイベントとして「子育てHAPPYDAY」を開催した。 ①「夏休みホラーナイト」 日時：令和2年 8月 9日（日）16時～ 参加者：106組 ②「青空図書館」 日時：令和2年10月25日（日）9時30分～ 参加者：390名 ③「HAPPYワークinにゃんにゃん王国」 日時：令和2年11月29日（日）9時10分～ 参加者：171名									
事業成果	「子育てHAPPYDAY」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行い、地域の団体や事業者、関係各課などとの連携のもと開催した。 子育て中の当事者だけではなく、地域一体となり、様々な立場の方が関わることで、「子育てを楽しみ、みんなで見守る」地域の意識づくりを進めることができた。									
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	社会教育一般事務費		
事業費（決算額）	98 千円									
財源内訳	国庫支出金 49 千円					その他特定財源 千円				
	県支出金 千円					一般財源 49 千円				
その他	国庫支出金：地方創生推進交付金 49千円									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	成人式事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進			
	施策				生涯教育の推進			
事業開始年度	昭和３３年度							
対象	２０歳の青年							
事業の目的	成人式に参加することにより、大人になったことを自覚し、社会の一員として再認識してもらう。							
事業の内容	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため次年度へ延期した。 ※当初の予定 「第63回 尾鷲市成人式」 ・日時：令和3年1月10日（日） 10時30分～ ・会場：尾鷲市民文化会館 （日程・内容については、新成人による実行委員会で決定）							
事業成果	新成人によるボランティア実行委員会を結成し、式典の準備を進めたものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、次年度に延期した。							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	成人式事業
事業費（決算額）	322 千円							
財源内訳	国庫支出金				千円	その他特定財源		千円
	県支出金				千円	一般財源		322 千円
その他								

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	放課後子ども教室推進事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策			生涯教育の推進				
事業開始年度	平成19年度							
対象	市内の小学生							
事業の目的	放課後等における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを進める。 地域のすばらしい自然や文化にふれながら、生活、社会、自然体験など さまざまな講座を実施することにより、学校外での学習を深める機会を創 出し、子どもたちが自ら考える力や、豊かな心を育てるとともに、地域で 子どもを見守り育む体制を支援する。							
事業の内容	小学生を対象に、土曜日や夏休みなどに多様な体験講座を実施。企画運営に当 たるコーディネーターを配置し、地域の方を講師にした地元を知ることにつな がるような企画などを取り入れている。 令和2年度は、『それ行け！尾鷲探検隊～尾鷲まちロゲ～』や『おわせの木を 知ろう！林業体験』などを実施した。 ○尾鷲校：部分日食を見よう！、クップ体験、放課後ひろばなど 21講座32回（うち、賀田小での平日講座は2講座2回、尾鷲小での 平日講座は2講座2回、宮之上小での平日講座は1講座1回） ○矢浜校：卓球教室、版画教室、放課後ユニカール大会など 5講座12回 〈活動推進のための体制整備〉 ①運営委員会並びに実行委員会を設置、ボランティアの協力 ②家庭・学校・地域の連携強化							
事業成果	多様な体験講座を通じ、子どもたちが異なる学年・学校の児童とつながりを持 つなかで、互いに思いやる気持ちを育み、また、地域の方々と連携して事業を進 めることで世代間交流の場ともなっている。 年間を通じて様々な講座を企画・募集したところ、多数の応募があった。家庭 だけでなく地域で子どもを育成しながら、放課後や休日の過ごし方の充実と安 心・安全な居場所づくりを進めることができた。 ・講座開催回数 26講座44回（尾鷲校：32回、矢浜校：12回） ・講座参加人数 818人（尾鷲校：699人、矢浜校：119人）							
予算科目	款	9	項	5	目	1	細目名	放課後子ども教室推進事業
事業費（決算額）	1,112 千円							
財源内訳	国庫支出金			千円		その他特定財源		千円
	県支出金			741 千円		一般財源		371 千円
その他	県支出金：放課後子ども教室推進事業補助金 741千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	公民館事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	昭和５５年４月（中央公民館竣工）									
対象	市民									
事業の目的	実際の生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するための各種事業を推進する。									
事業の内容	市民に学習機会を提供し、教養と健康づくりの推進など、生涯学習の拠点としての取り組みとして、中央公民館での講座等を開催するとともに、安全・安心な施設利用を目的に新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んだ。									
事業成果	定期講座では5講座・5サークルに延べ1,161人の受講があり、ロビー展等において展示を行った。 定期講座以外では、家庭教育支援講座において「大人のための読み聞かせ講座」を開催し、家庭教育に関する学習機会や交流機会を提供した。また、職員提案による「ボトルアクアリウム」や「熊野古道健康ウォーキング講座」などの新規講座を開催し、コロナ禍において自宅に閉じこもりがちな方など、気軽に参加できる講座を開催した。									
予算科目	款	9	項	5	目	2	細目名	公民館活動経費		
事業費（決算額）	203 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			203 千円
その他										

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	天文科学館管理運営事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	平成2年度									
対象	市民									
事業の目的	未来を担う青少年はもとより、広く市民に愛され、親しまれ、宇宙の美しさと神秘性を感じながら「夢と希望」を育み、生涯学習への関心を促す「場」と「機会」を提供していくことを基本に、天文及びその他の自然科学に関する知識の普及並びに文化の向上を図るための管理運営を行う。									
事業の内容	・観望会、観察会の開催 夜間観望会（金・土）、太陽の観望会、太陽黒点の観察会 特別観望会、特別夜間観望会、7惑星観望会など ・その他行事 各種体験教室、「七夕まつり」など									
事業成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した中で、夜間観望会や特別観望会（月食等）を実施し、利用増大に努めた。 また、各種講座・体験教室の開催、小学校からの社会見学、遠足等の受け入れを積極的に行うとともに、市HPやSNSを利用した情報発信に努めた。 （令和2年度年間総利用者 1,901名） 開館日数（148日） 夜間利用者333名 昼間利用者1,568名 ○各校来館・出前学習会授業 312名 ○夜間観望会、特別観望会 274名 ○講座・体験教室等 288名									
予算科目	款	9	項	5	目	3	細目名	天文科学館管理運営経費		
事業費（決算額）	2,053 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			36 千円
	県支出金					千円	一般財源			2,017 千円
その他	その他特定財源：天文科学館入館料及び使用料 14千円 天文科学館情報カメラ設置使用料 22千円									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	図書館管理運営事業							
施策体系	基本目標			みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策			豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策			生涯教育の推進				
事業開始年度	平成13年度（中央公民館図書室から市立図書館へ名称変更）							
対象	市民							
事業の目的	「暮らしの中の図書館」として以下のことを目的とする。 ①市民が知性と教養を育み潤いのある豊かな生活をするために役立つこと ②明日の社会を担う子どもたちの健やかな生活の糧として役立つこと ③市民の暮らしと仕事に必要な知識と情報が得られること ④市民の生涯学習の場となること							
事業の内容	市民が必要とする知識や情報が得られるよう、資料の収集・閲覧・提供・保存を行う。窓口では、図書の貸出・返却を中心に予約やレファレンスサービス・コピーサービス等を行う。インターネット予約は24時間受付、市民からのリクエスト本は、購入や県内外図書館等の相互貸借を活用する。「図書館だより」「新着図書案内」等の発行や特集コーナーの展示を行う。 妊娠期からの読み聞かせの啓発や幼児・児童向けの年齢に応じたおはなし会等の開催、保育園等への定期的な団体貸出、地区コミュニティセンター等と連携して、地域への団体貸出を行う。							
事業成果	新着図書案内等の定期発行、館内に毎月特集コーナーを設け、SNSでの情報発信を行い、読書普及を図った。貸出冊数57,059冊、貸出人数12,616人。自宅で図書検索ができるインターネット予約の利用件数1,167件。 毎月1回幼稚園・保育園への絵本の団体貸出、おはなし会22回、出張おはなし会4回、プレパパママ教室2回を開催し、延べ344人が参加し、乳幼児期からの読み聞かせなど読書に親しむ機会を提供することができた。 また、小中学生への読書推進を図るため、子ども読書会10回、中学校へのブックトーク1回、冬休み手作り絵本教室1回、図書館見学3回を行い、延べ390人が参加した。 地方創生臨時交付金を活用して、コロナ禍でお家時間を楽しめる図書の充実を図った。 地区コミュニティセンターと連携し、地区コミュニティセンターへの定期的な団体貸出を行い、図書館利用が不便な地域の住民に対しての貸出サービスを充実した。							
予算科目	款	9	項	5	目	4	細目名	図書館管理運営経費
事業費（決算額）	5,650 千円							
財源内訳	国庫支出金		499	千円		その他特定財源		5 千円
	県支出金			千円		一般財源		5,146 千円
その他	国庫支出金：新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 499千円 その他特定財源：図書館コピーサービス料 5千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	文化財一般保護事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	平成１６年度									
対象	市民・指定文化財等									
事業の目的	市内に所在する国・県の各種文化財および市にとって重要なものである市指定文化財等の保護・管理に務めるとともに、その活用を図り、貴重な地域資源として次世代に継承する。 世界遺産登録された熊野古道の保全や維持管理に努め、次世代に継承するとともに、来訪者の安全対策並びに熊野古道と周辺林野における経済活動との調整を行う。									
事業の内容	文化財調査委員とともに市内に所在する文化財等の調査やパトロールを実施するとともに、保護管理および活用等を行う。 須賀利大池については、須賀利大池及び小池保存管理委員会の意見を踏まえ、その保存管理や活用、周辺に自生する希少植物ハマナツメ等を守る取り組みを実施する。 世界遺産である熊野古道については、参詣道や説明板等の修繕、文化的景観の保全、来訪者の安全対策、熊野参詣道伊勢路環境保全指導員によるパトロール、森林施業との安全調整等の経費補填を実施する。 文化財調査委員6名、須賀利大池及び小池保存管理委員会委員10名 文化的景観保全審議会委員11名、熊野参詣道伊勢路環境保全指導員4名									
事業成果	文化財調査委員や三重県、専門家と連携し、文化財パトロールを行うなど市内文化財の保全を行うとともに、文化財の周知・活用等として郷土室の2回の企画展において、尾鷲の風土記や古典籍の展示を行った。 熊野古道については、環境保全指導員による定期点検をはじめ、環境保全指導員や熊野古道保存会・語り部などと連携し、古道等の補修（法面、石畳等）や老朽化した木製の100m道標の更新など、世界遺産である熊野古道を管理・保全し、来訪者等の通行の安全性や利便性の向上を図った。 須賀利大池及び小池については、須賀利大池及び小池の現地調査を実施し、大池でのハマナツメの生育状況調査、獣害防止柵の確認及び大池に至る陸路の確認等を行った。									
予算科目	款	9	項	5	目	5	細目名	一般保護事業		
事業費（決算額）	933 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源		499 千円	
	県支出金					千円	一般財源		434 千円	
その他	その他特定財源：熊野古道保全整備事業補助金 499千円									

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	郷土室保存運営事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	平成7年度									
対象	市民・尾鷲組大庄屋文書（県指定）・須賀利浦方文書（県指定）・大曾根浦方文書（市指定）・矢浜村方文書（市指定）・堀北浦庄屋文書（『尾鷲組大庄屋記録』中）・中村山土井家文庫（市指定）・民具・標本									
事業の目的	市域の人文・自然両分野にわたる諸資料を郷土の文化遺産として調査・収集・保存するとともに、公開・展示するなどして一般の活用を図り、郷土の文化・文化財を守り伝えることの大切さを普及することに努める。									
事業の内容	県指定文化財である尾鷲組大庄屋文書及び須賀利浦方文書、市指定文化財である矢浜村方文書や中村山土井家文庫等の文化財をはじめとした収蔵資料を適切に維持保存するため、専用薬剤による燻蒸処理等を行う。 また、これら市域の諸資料の調査や、その価値や大切さ、郷土との関わりなどを一般に分りやすく伝えるための企画展示等を数か月ごとに実施するなど、地域の文化・文化財を広く紹介する。									
事業成果	収蔵資料や新規寄贈資料を紹介する企画展示を行うことで、資料の活用を図り、郷土文化の伝承を行った。特に、展示で利用するため、紀州藩の一里塚調査に関する古文書を再調査した結果、江戸幕府による国絵図編纂に伴って実施された調査だったことなどが新たに判明するといった学術的成果も得られた。また、「中村山土井家文庫」など所蔵古典籍の再調査成果を展示し、古典籍が持つ魅力と歴史資料としての重要性を伝えた。 さらに、地域の方からの依頼を受け、郷土資料や文化財をテーマとした勉強会での講演を行い、外部講師らとともにシンポジウムも実施した。									
予算科目	款	9	項	5	目	6	細目名	保存運営事業		
事業費（決算額）	1,573 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源			千円
	県支出金					千円	一般財源			1,573 千円
その他										

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	少年センター事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				子どもの健全育成の推進			
	施策				子育て支援の推進			
事業開始年度	昭和５８年度							
対象	市民・青少年							
事業の目的	次代を担う青少年が、心身ともに健やかに成長し、豊かな人間性を身につけられるよう、関係機関・団体・地域社会が連携し、教育的配慮をもって補導活動を推進することによって、青少年の非行防止を図るとともに、その健全育成に努める。							
事業の内容	・補導活動の積極的推進（街頭補導、不審者等情報の収集と対応ほか） ・指導活動の推進（青少年の問題行動への指導や少年らへの支援ほか） ・環境浄化活動の推進（不良な環境の早期発見と排除ほか） ・相談活動の充実（学校や相談機関との緊密な連携、個別対応ほか） ・啓発活動の推進（関係機関や団体と連携した啓発活動ほか） ・青少年健全育成事業の推進（町民会議との連携活動、いじめ防止ほか）							
事業成果	「地域の子どもは、地域で育てる」という考えを基本に、自主指導として自転車による巡回や下校時の見守り、青パト巡回をはじめ、尾鷲市青少年育成市民会議や各町民会議と連携した取り組みを行った。 関係機関・団体からなる非行防止ネットワーク「オッwaseふれ愛隊」や少年指導員の会等との連携による非行防止活動などは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。							
予算科目	款	9	項	5	目	7	細目名	少年センター一般事務費
事業費（決算額）	536 千円							
財源内訳	国庫支出金				千円		その他特定財源 千円	
	県支出金				千円		一般財源 536 千円	
その他								

主 要 施 策 の 成 果 及 び 実 績 報 告 書

課 名： 生涯学習課

事業名	文化会館管理事業									
施策体系	基本目標					みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち				
	政策					豊かな心を育む人づくりの推進				
	施策					生涯教育の推進				
事業開始年度	平成5年度									
対象	市民									
事業の目的	市民の文化、教育、福祉、地域の産業振興等の増進に資するため、運営を行う。									
事業の内容	尾鷲市民文化会館の管理運営を指定管理者へ委託及び施設の適切な維持管理のため修繕を行う。									
事業成果	施設の適切な維持管理のため、空調設備、及び消防設備の修繕を実施した。 また、指定管理者である「公益財団法人尾鷲文化振興会」において、講演会、映画等の自主事業、及び共催事業として教育文化事業を実施するとともに、コロナ禍において、ホームページ上での「Web写真展」の開催や、舞台技術講習会においては、今後、映像教材として活用することを目的として、内容の一部を撮影、記録した。									
予算科目	款	9	項	5	目	8	細目名	文化会館管理運営費		
事業費（決算額）	51,595 千円									
財源内訳	国庫支出金					千円	その他特定財源		4,426	千円
	県支出金					千円	一般財源		47,169	千円
その他	その他特定財源：三重県市町村振興協会市町村交付金 4,426千円									

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	スポーツ振興事業							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進			
	施策				生涯スポーツの推進			
事業開始年度	平成5年度							
対象	市民							
事業の目的	子どもから高齢者まで、初心者から上級者まで、地域の誰もが年齢、性別の隔たりなく、興味とレベルに応じたスポーツ活動ができる機会を拡充し、いつでも・どこでも・誰とでもスポーツのできる場を提供する。 また、スポーツ活動を活性化させるため、スポーツ少年団を通し、育成を図るとともに、スポーツ協会加盟団体等の活動を支援する。							
事業の内容	1. スポーツ教室等の開催 2. スポーツ活動への支援（少年・成年スポーツ活動、スポーツフェスティバル、他市町公営プールの利用支援など）							
事業成果	尾鷲市スポーツ協会・尾鷲市スポーツ少年団と連携し、スポーツ大会の開催、三重県市町対抗駅伝大会に向けての練習（新型コロナウイルス感染症の影響で大会は中止）等、コロナ禍において実施された事業に対し支援を行った。 そのほか、尾鷲市他市町公営プール利用補助金交付により、市民のスポーツ振興、及び健康増進等を図った。							
予算科目	款	9	項	6	目	1	細目名	スポーツ振興事業
事業費（決算額）	3,651 千円							
財源内訳	国庫支出金				千円	その他特定財源		462 千円
	県支出金				千円	一般財源		3,189 千円
その他	その他特定財源：学校開放使用料 462千円							

主要施策の成果及び実績報告書

課 名： 生涯学習課

事業名	三重とこわか国体活動費							
施策体系	基本目標				みんなが子どもを育み心豊かに暮らせるまち			
	政策				豊かな心を育む人づくりの推進			
	施策				生涯スポーツの推進			
事業開始年度	平成３０年度							
対象	市民							
事業の目的	「三重とこわか国体」に向け、本市で開催される正式競技及びデモンストレーション競技の普及・振興を行い、国体の円滑な開催のため、国体実行委員会の運営を行う。							
事業の内容	1. 国体実行委員会の開催等 2. 正式競技に係る取り組み （本大会及びリハーサル大会開催準備等） 3. デモンストレーションスポーツの普及・振興 （ユニカール・カップ体験会、指導員・審判講習会等） ※カップ普及推進事業（みえ森と緑の県民税市町交付金） ＝全国規模大会の取り組みを視察し、国体に向けた普及啓発及び大会運営について学ぶとともに、競技会等を通じ普及促進を行う。							
事業成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンウォータースイミングのリハーサル大会が中止となり、その他の市内外の競技大会や鹿児島国体の視察、会議等が中止となる中、国体開催に向けた準備を行った。 デモンストレーションスポーツであるユニカール・カップについては、体験会や講座など幅広い世代で開催。カップについては、全国規模大会の取り組みを視察するとともに、カップ普及指導員養成講習会や審判講習会等を実施し、普及・振興を図った。							
予算科目	款	9	項	6	目	4	細目名	三重とこわか国体活動費
事業費（決算額）	2,057 千円							
財源内訳	国庫支出金				千円	その他特定財源		1,266 千円
	県支出金				千円	一般財源		791 千円
その他	その他特定財源：みえ森と緑の県民税市町交付金 1,266千円							

Ⅲ 教育委員会の活動状況

１．活動状況

① 尾鷲市教育委員会委員選任状況

(令和３年３月３１日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	出 口 隆 久	自：令和 元年１０月１１日 至：令和 ４年１０月１０日
教 育 長 職務代理者	森 下 龍 美	自：平成３０年１０月 １日 至：令和 ４年 ９月３０日
委 員	北 裏 佳 代	自：令和 元年１０月 １日 至：令和 ５年 ９月３０日
委 員	大 門 利江子	自：令和 ２年１２月 ８日 至：令和 ６年１２月 ７日
委 員	濱 口 精 幸	自：平成２９年１０月 ９日 至：令和 ３年１０月 ８日

*教育長任期：３年 教育委員任期：４年

② 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、毎月１回の定例会のほか、必要に応じて臨時会を開催し、教育委員会の議決事項等について審議を行っています。

定例会１２回、臨時会３回

③ 審議状況

３０件 ※報告事項は１１件

④ 審議された議案

内 容	件 数 (件)	内 容	件 数 (件)
条令関係	１ 件	人事関係	２ 件
規則関係	９ 件	施策、計画関係	６ 件
要綱関係	１ 件	予算関係	７ 件
その他	４ 件		

⑤ 教育委員会会議以外の主な活動

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、学校訪問、各種行事、各種会議への参加、他市町教育委員との合同研修会など、様々な活動を行っています。

令和2年6月29日、6月30日の2日間、教育現場等の現状を直接見聞する機会として、授業や集団での遊びの様子、特別支援教室などの施設を見学し、校長（園長）、教頭と意見交換を行いました。訪問は毎年実施しており、小学校5校、中学校2校、幼稚園1園を訪問しました。

各学校の取り組みについて把握するとともに、実際に子ども達が小中学校や幼稚園で、いきいきと活動する様子を見学することで、教育委員会による効果的な支援を実施することができると考えています。

また、認定こども園の管外視察として、令和2年10月15日に御浜町の2園（保育所型）、11月16日に伊勢市（幼稚園型）、明和町（幼保連携型）、津市（幼保連携型）の各1園を訪問しました。

この管外視察を通して、各園の園長をはじめ関係者と意見交換等を行い、今後の本市の「幼児教育のあり方について」考えていくうえで、有意義な管外視察であったと考えています。

IV 第三者評価（学識経験者の知見の活用）

1. 第三者評価委員

名 前	備 考
山本 樹	元宮之上小学校長
湯浅 祥司	尾鷲市社会教育委員長

2. 第三者評価結果について

【山本委員の評価】

(1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

九鬼・輪内地区の子どもたちの安心・安全な通園・通学手段の確保及び地域学習の充実の観点から、意義の大きい、欠かすことのできない事業です。「尾鷲市スクールバス運営協議会」を定期的開催しながら状況を確認しつつ、子どもたちの声も反映させながら、より安心・安全で快適な運行を図っていただきます。

また、様々な状況を想定した乗車時の避難訓練を、精度を高めながら実施していただくとともに、新型コロナウイルス感染防止対策についても継続して万全を図っていただきたいと思います。

(2) 学校 I C T環境機器整備事業

小中学校の I C T環境機器の整備が図られたことは大いに評価できます。今後は、これらの機器やソフトを活用した情報教育の推進が各校で課題となると考えます。教職員が児童生徒等の情報活用能力を高めるためのスキルを身に付けていくための研修の実施など、予算面も含めた支援をお願いします。

また、情報機器のメンテナンスや拡充についても計画的に実施していただきます。

(3) 魅力ある学校づくり推進事業

この事業を通して、児童生徒は英語への親近感を高めるとともに、会話力も向上させており、保護者も取組の効果を実感している状況が窺えます。教員の指導力も確実に向上してきていると考えられます。

今後も三重大と連携したこの取組を強化・推進していただきたいと思います。A L Tの活用も有効だと考えます。また、モデル校だけに留まることなく、本事業の成果を他の小中学校にも発信しながら、市全体の児童生徒等の英語力向上に繋げていただきます。

(4) 奨学金貸付事業

コロナ禍により利用者の拡大が見られるものと予想しておりましたが、事業費の決算額は、昨年度の7割に満たない状況でした。奨学金へのニーズは少なからずあると思いますので、今後とも、市の奨学金ならではのメリットをさらに保護者に知らせていく必要があるとともに、より利用しやすい制度にするための改善を図っていただきたいと思います。

(5) ふるさと教育支援事業

令和2年度は、コロナ禍の影響で、思うように本事業が展開できない状況があったことを残念に思います。しかし、児童生徒が、様々な分野で活躍する地元のよき先輩に出会い、触れ合う活動を通して、ふるさと尾鷲に対する愛着を深めるよき機会であり、「おわせ人」づくりにつながる貴重な事業であることは間違いありません。

令和2年度は、県の事業である特別非常勤制度（※地域の人材を学校の授業で講師として活用する制度）が廃止された学校現場にとっては、これからも継続していただきたい事業です。

(6) 子どもの学びと育ち育成支援事業

「学級満足度調査（Q-U）」は、学級全体及び個々の児童生徒の実態についての客観的な分析データを提供してくれるものです。教育現場では、各担任が調査結果を基にして、自らの学級づくりや生徒指導の在り方の振り返りを行い、軌道修正を加えて実践しています。問題行動発生の未然防止にも役だっていると思います。学級経営上での有効性は高く、今後も継続していくべきものだと考えます。

幼稚園での人形劇の鑑賞については、文化的・芸術的な催し物の開催がそれほど多くない当地域にとっては、「本物の芸術」に触れることのできる貴重な機会であり、園児の情操を育み、文化・芸術への興味関心を高める上でも意義の大きな事業であると考えます。人形劇鑑賞が主流のようですが、他の催し物の鑑賞についても考えていってもいいのではないかと思います。

(7) 地域人材を活かした子育てHAPPY事業

コロナ禍の下で、しかも10万円ほどの事業費で、3つのイベントを開催し、併せて800名ほどの参加者があったことは評価できます。人口減少の状況にあるからこそ、より子育て支援の重要性を実感しています。

今後も本事業を充実させ、地域との関わりの中で子育てに対する不安の解消を図り、子育てしやすい町づくりを推進していただください。

(8) 成人式事業

新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、「第63回尾鷲市成人式」が延期されたことは、残念でありませんが賢明な判断であったと思います。コロナ禍収束の目途が立たない中、次年度の開催についてもまだまだ不透明な状況があり、課題も多いとは思いますが、その有無も含めて、新型コロナウイルス感染防止の観点から式典の開催方法を十分に検討していく必要があると思います。一番に新成人の皆さんの声を大切にさせていただくとともに、新成人で組織する実行委員会形式での開催については継続していただきたいと思います。

(9) 放課後子ども教室推進事業

令和元年度の事業実績が34講座55回であったのが、コロナ禍の影響であろうか、令和2年度は26講座44回でした。一方、参加人数を見ると、令和元年度が939人で、令和2年度は818人です。講座の規模等もあって単純には比較できないでしょうが、講座回数が減少したわりには参加人数は多いように思います。やはり、本事業は、子どもたちにとって楽しい体験活動の場であるということが出来ます。

今後も、新型コロナウイルス感染防止対策を万全にしながら、地域に根ざした、魅力的な講座を企画していきましょう。

また、令和元年度の平日開催は尾鷲小学校で3講座3回であったのが、令和2年度は、尾鷲小学校で2講座2回、宮之上小学校で1講座1回、賀田小学校で2講座2回となっており、放課後児童クラブとの連携という観点から、前進が見られたものと評価します。

(10) 公民館事業

令和元年度は定期講座が9講座・4サークルで述べ2,131名の受講があったが、令和2年度では定期講座5講座・5サークルで述べ1,161名の受講という状況でした。ここにもコロナ禍の影響が否めないと思います。

令和2年度において、自宅に閉じこもりがちな方などに向けて、気軽に参加できる講座を新規に開催していただいておりますが、コロナ禍の収束が不透明な状況に於いて、今後ともこのような観点からの講座を企画していただき、市民の心身の健康増進を進めていただきたいと思います。

(11) 天文科学館管理運営事業

コロナ禍の中にあっても、令和2年度の利用者数が昨年度よりも幾分減少しただけに留まっているのは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、本市ホームページやSNSを利用した情報発信に努める等、利用者増大に努めた結果であると評価します。

小学校への出前授業も、子どもたちを美しい星空に誘い、自然科学への興味関心を高める内容となっており、継続した取り組みを行っていただきたいと思います。今後も館内の展示や・講座・イベントの工夫・改善に努め、尾鷲ならではの星空の美しさを生かした事業の展開を期待します。

(12) 図書館管理運営事業

令和2年度は、貸出冊数及び貸出人数とも昨年度の8割程度に落ち込んでいます。同館では、地方創生臨時交付金を活用して、コロナ禍でお家時間を楽しめる図書の充実を図ったということです。今後利用者拡大に向けた取組を推進していただきたいと思います。インターネット予約は、利用件数が前年に比べ倍増しています。市民にネット予約の利便性の認知が浸透してきていると考えられます。

今後も利用拡大を図ってください。幼稚園や小中学校に対し、読書週間の定着を図るための読み聞かせやブックトーク、種々のイベントを精力的に展開していることは評価できます。

また、図書館利用が不便な周辺地域住民の利用拡大を図るための、地区コミュニティセンターへの定期的な団体貸出の実施についても、継続して推進し、充実を図ってください。

(13) 文化財一般保護事業

本市の貴重な文化財や自然の保全に欠かすことのできない重要な事業です。限られた予算と人材の中で、パトロールを行い、必要に応じて補修に努めていただいていることは評価できます。今後も関係機関や専門家等と連携しながら、着実に保護活動を進めていってください。

また、文化財の周知・活用を意図した企画展を実施されておりますが、さらに充実・発展させていただきたいと思います。

(14) 郷土室保存運営事業

収蔵資料のデータ化や、目録等の作成に取り組んでいただいているが、再調査も含めてさらに継続して整理を進めていただきたいと思います。また、資料の管理・保存も重要な事業ですが、企画展示の充実や教育現場等との連携等、活用面での取組みもさらに展開されることを期待します。

(15) 少年センター事業

巡回パトロールや下校時の見守り等、地道な取組みを行い、日々、子どもたちの安全確保に努めていただいております。心強く思います。コロナ禍で中止せざるを得なかった活動もありますが、今後とも市民や関係機関と連携を図りながら、子どもたちの健全育成や非行防止、安全確保に努めてい

ただきたいと思います。

(16) 文化会館管理事業

文化・芸術に触れる機会の少ない本市にあって、文化会館の存在意義は大きく、市民の声を反映させながら魅力ある事業を展開していただきたいと思います。開館して間もなく 30 年が経過しようとしている状況の中で、施設の維持・管理には苦勞されていると思いますが、今後も計画的、効率的に長寿命化を図ってってください。

(17) スポーツ振興事業

コロナ禍の影響と考えられますが、事業費決算額が昨年の 4 割程度と縮小していることは残念です。

このような状況にはあるが、本事業は本市のスポーツ振興には欠かせないものであり、今後とも支援を継続し、本市のスポーツ人口の拡大と市民の健康の維持増進を図っていただきたいと思います。

(18) 三重とこわか国体活動費

大会開催に向けた準備が着実に進められており、間もなく開催される本番において、その成果のもとにスムーズな運営が行われ、成功裏に大会が終了することを期待しています。

【湯浅委員の評価】

(1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

三木小・三木里小を賀田小へ統合した時期と、旧大型バスの更新を一致させ、円滑な運営移行ができました。また、運営中に津波の避難訓練なども実施され、確実に歩んでいることを評価します。学校統廃合が進み、輪内地区には今までなかった通学・移動手段をバス輸送に定着させることで、大きく改善させた事業です。

(2) 学校 I C T環境機器整備事業

待望の G I G A スクール構想が始まりました。地元でもリモート会議や e ラーニングで免許再講習を受けられる時代です。構想の整備事業で、教育がようやく時代に追いついたといえるでしょう。先生方の永年の経験と勘を土台に、I C T で大きく羽ばたく時代がやってきました。20年前、I T 講習が社会教育分野で始まったときのワープロソフトは日本製でした。現在でも性能の優位は変わらないので、どこかで残したいものです。I C T の特性として、現地へ行かなくても先進地の進んだ情報を居ながらにして入手できます。1人1台端末整備の次にすぐやってくるソフト整備に、万全の準備・行動が必要です。

(3) 魅力ある学校づくり推進事業

コロナ禍で最も辛抱を強いられたのは小中学生ではないか、という見方があります。そんな中、賀田小学校と輪内中学校の連携は理想的な教育へとつながっていきます。三重大の共同研究もあり、今後の大きな成果を期待できます。現代は自らの「やる気」で情報は自在に入るので、更に「生きる力」を意識して進めていただきたい事業です。

(4) 奨学金貸付事業

募集時、卒業後地元勤務したときの優遇措置を、何度も広報されてきました。まだ知らない人が多いと思うので、周知の意味で適切でした。若者が地元へ残る、数少ないきっかけの一つになれば、「心豊かに暮らせるまち」「卒業後社会に貢献させる」目的は叶います。粘り強く進めていただきたい事業です。

(5) ふるさと教育支援事業

尾鷲市の高齢化率は44.6%(R3.5)になり、今後も少し上昇すると予想されますが、同じレベルで今後20年間最高値が継続するという予測があります。これを逆に「先達の多い町」と捉えると、学びの達人が多数みえることになります。様々な分野で活躍してきた「かつての現役」の

力を借りることは、理想的です。また高齢者の生きがいにもつながります。どんどん拡張していった欲しい事業です。

また、きれいな星空も都市部では絶対体験できない、買うことができない資源です。ない物ねだりをしなくても可能な活動を期待します。

(6) 子どもの学びと育ち育成支援事業

半世紀を経ても、地元でオーケストラの生演奏を聴いた時のことは鮮明に覚えています。テレビ等のバーチャル空間での経験とは全く違った、「本物の芸術」を今後も経験させてあげて欲しいと思います。定着してきたQU調査は継続することで意義が大きくなり、活用の幅が広がります。学校での良い思い出につながり、尾鷲が好きになる大切な事業です。残すところ1年半となった、尾鷲市教育ビジョン（後期）の主な施策「次代を創るおわせ人（びと）づくり」に向け、複数の事業が動いています。まとめの時期にさしかかってきました。

(7) 地域人材を生かした子育てHAPPY事業

コロナ禍で実施困難な中、工夫を重ねて実現した事業でした。「お化け」が「心豊か」とどうつながるのか注目しましたが、非日常を楽しんでいる児童を見て納得しました。定着してきた4年目になる図書館の一大イベント・青空図書館は、今回は快晴に恵まれ、盛会でした。子育てHAPPY事業は、関係各課・地域支援団体・ボランティアの協働で実現しており、良好な運営が印象的です。地域の体力を収束していく手本になっている事業であり評価します。

(8) 成人式事業

コロナ禍で昨年は実施できませんでした。実行委員会方式は当初に比べ、安定・定着しており、今後も若者の意見を品位が保てる範囲で実現したいものです。令和2年秋、従来記念写真の背景となっていた火力煙突がなくなり、尾鷲を記録する仕掛けが新たに必要になります。過去の例から、満帆の大漁旗が最適ではないかと思います。

(9) 放課後子ども教室推進事業

子ども達だけでは準備できない、タイムリーな事業を多数実施できたことは素晴らしいことです。部分日食観察は結局曇って、ほとんど見ることはできませんでした。ものごとは思い通り行かないのも学びといえます。家庭・学校・地域の連携は、最先端のテーマであり、そこで成果を上げつつあるということを高く評価します。継続に向けて課題も出てくるでしょうが、長く続けていただきたい事業です。

(10) 公民館事業

社会教育関係団体・学習グループ及びサークルについては再認定という形で、名前だけになっている団体がないか、チェックを進めてきました。休止状態のグループは減っていくものの、新しい団体の申請もあり、市民の文化活動は継続していきます。マイ箸については一定の成果が上がったという声もありますが、「コンテスト 尾鷲」で検索すると全国尾鷲節コンクールと並ぶ数少ないヒット項目であり、コストパフォーマンスや小中学校授業への定着を考えたとき、継続していただきたいと思います。

(11) 天文科学館管理運営事業

ホームページは11年前から開設されています。長年反応が不明でしたが、昨今SNSでの発信も加わり、ネット上で広く知られるようになりました。検索すると、多数の関連ページが現れます。印刷されたメシエカタログは、少数の市販品を除いて、国内では例がありません。来館者の参加を得て完成したものとしては、世界で唯一無二でしょう。来館者数増加のネックとなるのは、プラネタリウム・宿泊施設・食堂が、いずれも当館にないことです。難しい運営を求められていますが、ユニークな小規模館としての道を、歩んで行って欲しいと思います。

(12) 図書館管理運営事業

令和2年度はコロナ禍閉館で、入館者が38%もの大幅減少となりました。しかし詳しくみると、入館者の貸出人数比率が34%、貸出冊数が26%も増加しています。これは今まで経験したことのない数値です。本をたくさん借りた人が急増していたことが伺われます。かけがえのない文化発信の一面を示しています。市ホームページでの発信や改訂された「つみくさ」も充実しています。市の社会教育施設として、更なる活動を期待します。

(13) 文化財一般保護事業

熊野古道の活用が県へ提言されてから27年、世界遺産登録の2004年7月7日から16年経ちました。15年記念事業は県も力を入れてくれましたが、次の20周年が控えております。現場の苦労が目に見えるようですが、維持管理は市単独では広すぎる難点があります。県との連携やクラウドファンディングも試みてはどうでしょうか。

(14) 郷土室保存運営事業

多種多様な資料の整理・電算化が進められています。後年必要なときすぐ対応できるようにするのは、目に見えない大仕事ですが、市域の大切な唯

一の経歴書になります。電子化については、中央官庁でも特定のソフトに基づかない書式に変化しつつあるので、永久保存形式の情報収集もお願いしたいものです。近代の尾鷲写真も整理の対象にしたいところですが、これは存在の確認から始まる、時間のかかる仕事になりそうです。

(15) 少年センター事業

合同補導や定期夜間巡回がコロナ禍のため、大幅に中止になりました。喫煙や祭りでのふるまい酒の報告もなく、過去の補導等の成果が上がっていると考えられます。一方で増加したのが不審者情報で、前年比5割増しの9件に上りました。情報内容も詳しくなっており、内容がよくわかります。青少年に対する不審者事項は、今後も注意していく必要があります

(16) 文化会館管理事業

建物は50年、設備は20年を経た頃一度大きな寿命が来ます。空調設備の改修はそんな一面を見せています。現在も、松阪以南で最も大きな整った文化会館に変わりはなく、「市民の宝物」であり、その維持・管理も大切な事業です。

(17) スポーツ振興事業

中間見直しを終えた尾鷲市スポーツ推進計画には、ウォーキングが国体のデモンストレーション競技と記されました。コロナ禍のため直前で中止になりましたが、おわせ海・山ツーデーウォークは広く知られるところとなりました。「ウォーキング 尾鷲」で検索すると数多くヒットし、今後の方向性を見通せます。また、ランニング等が苦手な高齢者に人気があり、持続可能なスポーツとして捉えられています。熊野古道等もあり、尾鷲をウォーキング・スポーツのメッカとして捉えることも、不可能ではありません。

(18) 三重とこわか国体活動費

1980年代後半のリゾート法で整備された三木里海岸で、国体のオープンウォータースイミング（OWS）が開かれます。水質・施設では選手達の評判も良く、開催が期待されます。昨年度の事業では、コロナ禍で地元リハーサル大会や鹿児島国体も中止になりました。OWS 準備・視察も順調に進んだとはいえません。一方「木の国カップ」の下地は着実に進んでいます。今後の定着を期待したい事業です。三木里海岸には、30年待った檜舞台が訪れます。どうか成功して、三木里の名を高めて欲しいものです。

V 教育委員による評価

【教育委員の評価】

(1) 九鬼・輪内地区スクールバス運行管理事業

令和2年度は、4月から5月にかけて新型コロナウイルス感染による一斉臨時休校や各種学校行事等の中止により、例年よりも運行回数が減少しました。そういう状態の中、バス乗車中の感染を予防するために、運行管理者および学校に対しては、車内の消毒作業や車内の換気など感染予防対策を徹底するよう指示をしましたが、十分に履行され1年間感染が見られなかったことからその努力に感謝したいと思います。

また、通学以外の利用として、地域住民との交流を通じ郷土愛を育む教育に重要な役割を果たしており、大いに活用していただきたいと思います。

そして、バス乗車時の災害対応について、どこで災害が発生しても最善の対応が出来るよう、ドライバーと子どもたちの意識の共用が必要だと考えます。今後も日々の点検と安全運転を励行していただきたい。

(2) 学校ICT環境機器整備事業

ICT環境機器整備については、GIGAスクール構想により5ヶ年計画で1人1台パソコンを目指していましたが、新型コロナウイルス対策として、学校休業期間中も切れ目のない学習環境提供のためにGIGAスクール構想のスピードアップが図られることとなり、いち早く令和3年度当初に1人1台パソコンが実現できることは高く評価できます。

今後は、次世代を担う子どもたちが必要な情報活用能力を身につけるために児童生徒・教員のリテラシーの向上はもちろんのこと、この機器をどのように使えば子どもたちのためになるのか、しっかり研究していただき、その成果を共有していただきたいと思います。

また、パソコンに頼りすぎず、「書く」ことも忘れずに実施して欲しいと思います。

※リテラシーとは：読み書きの能力。また、与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。活力

(3) 魅力ある学校づくり推進事業

三重大大学との共同研究により、賀田小学校、輪内中学校の2校が連携校として9ヶ年の一貫した英語教育を進めていますが、2年目に入り、英語に慣れ親しむ、簡単な英会話の活用など、その効果が見えてきています。

また、9割の生徒がバス通学であることから、英語を身近に感じ興味を持って親しんでいけるように、車内でも英語の音楽を流す等、時間を有効活用し、英語に触れる機会を増やして欲しいと思います。

この事業はたいへん魅力あるものなので、少しでも早く成果をまとめ、他校へ波及していただきたい。

また、児童・生徒の英語力、コミュニケーション力の向上等、ALTの役割をふまえ、ALTにはさらに活躍していただきたいと思います。

(4) 奨学金貸付事業

本市の奨学金貸付制度は、高等学校、大学等へ進学する生徒の家庭の経済的負担を軽減するものでありますが、令和2年度の利用者は2名にとどまりました。

また、新型コロナウイルス感染症による経済状況の悪化から、追加募集を行いました。応募がなかったことから、今後は、この奨学金貸付事業の周知や特に返還免除制度などについても、より一層丁寧に広報していく必要があります。

奨学金制度については、公、民で、有利子貸与、無利子貸与、奨学金の額の多寡など様々な種類のものが多く用意されていますが、それらも参考にして見直してみる必要があります。

(5) ふるさと教育支援事業

子ども自身が「尾鷲で育ち、尾鷲で学ぶ」ことを身近に実感できる事業で、地域の方とともに昔の遊びをしたり、まち探検、地域の伝統文化の継承などを中心に取り組んでいます。ふるさとを離れて生活するようになって、「ふるさと」は思い出となって現れます。昨今、ゲーム機やスマホに大事な時間を占有されている中で、四季の自然の中で遊ぶことは、とても大事な「ふるさと教育」なので、今後もこういった事業は継続していただきたいと思います。

また、この事業に関わっている地域の方々への講師謝礼金等の予算化についても検討をお願いします。

(6) 子どもの学びと育ち育成支援事業

本事業は、小中学校で、QU調査を行い、学級集団の状況、一人ひとりの子どもの学級での満足度や生活意欲などが把握できるものであり、その結果を教師集団が共有し、学校全体として改善の方向に向かうことが大切です。

活用を始めてから長い年月になり、十分に活用され、特に経験の浅い教員にとっては貴重なデータであり、指導に効果を上げている学校もありますが、一方で、結果を十分に生かし切れていないという学校もあるため、教育委員会としては、研修会等を開催し、学級づくりに十分に活用できるような手立てが必要であると考えます。

(7) 地域人材を生かした子育てHAPPY事業

子育て支援団体、ボランティアなど地域人材を活用して、親子で楽しめるイベントを企画しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染の心配をしながらも、徹底した対策を講じたうえで「夏休みホラーナイト」、「青空図書館」などを実施することができました。

また、「子育てHAPPYDAY」は、「子育てを楽しみ、子育てしやすいまち」を感じることができる事業となっています。多くの子育て世代や見守り世代の方々に参加して頂くためにも、事前PRをさらに充実していただき、1人でも多くの市民に楽しんでもらいたいと思います。

(8) 成人式事業

令和2年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止により延期となりました。延期により各方面にはご迷惑をかけたことと推察されますが、丁寧な広報や連絡等が行われ、大きな混乱はなかったとの報告がありました。

新成人による実行委員会の企画・運営による開催スタイルで今後も継続して欲しいですが、新成人全員が主役となれるような「成人式」を開催していただきたいです。

今後の実施については、実行委員会との協議、連携を十分に行い、感染の状況も見極めながら、十分に検討していただきたい。

(9) 放課後子ども教室推進事業

コーディネーター、運営委員、地元の講師の方々の企画・運営により精力的に講座が開催され、多くの参加者を集めていることを評価したい。子どもたちが地域の自然や文化に触れながら貴重な体験をすることは、子どもたちの創造力を豊かにし、異年齢、他校の子どもたちとの交流など参加者の成長に大きく寄与していると考えられることから、今後も地域の方々と連携して継続していただきたい事業です。

ただ、現状では参加できない子どもたちもいることから、更に活動エリアを広げることが可能かどうかの検討が必要であると考えます。

(10) 公民館事業

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために、食に関する講座やコーラス教室などの中止や開催の延期、人数制限などこれまで通りの講座開催とはならなかったことは残念でしたが、開始時期の遅い講座などは、感染対策を十分に行った上で通常通り実施でき、一定の成果を上げる

ことができました。

公民館講座や自主事業を実施し、市民のニーズに対応した内容も多く、地域住民の交流の場として重要な役割をよく果たしています。

今後は、継続するのはもちろんのこと新規の受講生、講座開設にも力を入れていただき、誰もが利用しやすく、魅力のある事業となるよう期待します。

(1 1) 天文科学館管理運営事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した中で、星空が美しい尾鷲をより多くの方に興味を持ってもらえるように市ホームページやSNSを利用した情報発信等を積極的に行いましたが、昨年度に比べ利用者の減少が見られました。

これまで様々な工夫により利用者増の傾向が見られていたのですが、来館者参加型の企画として続けられていた「メシエ天体(110天体)カタログポスター」が完成を見たことや来館者が自分で望遠鏡を操作する企画などが計画されたことは評価できます。

今後も、市広報による市民優待券や来館できない子どもたちのために学校へ出向いての講座等は、継続して欲しいと思います。

(1 2) 図書館管理運営事業

コロナ禍により、例年より利用者の減少が見られましたが、限られた職員で、創意工夫をし読書の習慣を付けるため、幼稚園・保育園・学校・コミュニティセンター等へ巡回図書や幼児を対象とした読み聞かせや子ども・保護者等への読書推進啓発、学校との連携、図書館だよりなど、読書の普及に努力されている点や小学校図書室への図書館司書の配置も高く評価します。

尾鷲市子どもの読書活動推進計画の第3次計画が策定できたことで、時代とともに情報収集の手段が変化していく中、今後の読書推進の方向を示す大きな指針となるものと評価しています。

(1 3) 文化財一般保護事業

市指定文化財等の保護・管理に努め、環境保全指導員、文化財調査委員による文化財の保全状況の点検が定期的に行われており、これまでの調査結果をもとに郷土室と連携して展示等を行い、市民に周知できたことは評価できます。

また、全国的にも貴重な文化遺産である須賀利大池・小池については管理に時間と労力が必要ですが、貴重な文化遺産であり、さらには郷土学習への活用も検討して欲しいと思います。

(14) 郷土室保存運営事業

膨大な資料の現状維持・保存は重要であり、適切に管理されています。その貴重な資料は、まだまだ解明されていないものも多くあると思いますが、新たな学術的成果が得られることは、本市の持つ資料の価値を高めることであり、今後も研鑽していただきたい。

本市には、個人歴史研究家も多く、郷土室の持つ資料や新たな成果などは興味深いものもあり、市民学習会などを実施して、市民にも郷土文化についての重要性について知っていただき、次世代に継承していただく事を期待します。

(15) 少年センター事業

コロナ禍の影響による祭りの中止などにより、夜間特別パトロールなどが実施できませんでしたが、日常的な巡回指導や街頭指導などに重点を置いた地道な活動、特に、小学生等の安心・安全な登下校を見守る取り組みは、高く評価します。

地域の各団体とは、強固な連携により地道な活動を行ってきましたが、やはりコロナ禍の影響もあって減少傾向にあります。各団体とは、今後も実践的な活動を通して相互の関係をより一層確かなものにしていただきたいと思います。

(16) 文化会館管理事業

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響から、事業の中止などもあって利用件数、来館者数が大きく減少しました。夏以降は感染症対策を行いながら自主事業が開催できましたが、今後もこのような状況が続く可能性もあります。事業実施の可否の判断がむずかしいですが、的確な情報収集とこれまでの経験に基づき検討していただきたいと思います。

また、文化会館は、市民の憩いの場でもあり、気軽に文化活動を行える場でもあることから、優れた文化芸術に触れる機会を増やすためにも満足のいく企画・運営に期待します。

(17) スポーツ振興事業

令和2年度は、スポーツ推進計画の中間見直しの年度になっていたため、市民目線で見直しを図るべく、策定委員の一般公募、パブリックコメント、行政常任委員会などの意見を参考に見直しを行ったことは評価できます。

子どもの数の減少も影響し、スポーツ少年団へ加入する子どもが減り、団員集めに苦勞している少年団もあります。大会で上位を目指すことも

必要ですが、心と体を鍛えることを重視し、低年齢からの入団も検討してはどうでしょうか。

他市町の公営プールの利用助成金は、市民にとってありがたい制度です。1人でも多くの市民が活用できるように、さらなるPR活動に努めてほしいと思います。

(18) 三重とこわか国体活動費

新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンウォータースイミング三重オープン2020兼三重とこわか国体リハーサル大会が次年度に延期されました。予定が計画通り進まない中で、デモンストレーションスポーツの体験会や講座など幅広い世代に向けて開催するなどして、普及・振興を図れたことは評価します。今後も、体験会や講座などを開催し、普及・啓発活動を継続して行っていただきたいと思います。

本大会の開催については、開催場所では不安も大きいと考えられ、あらゆる感染防止対策を講じることを最優先にして不安を解消した上で理解を求めつつ、大会実施に進んでいただきたいと思います。

VI おわりに

尾鷲市教育委員会では、令和２年度は「尾鷲市教育ビジョン」の具現化第２期として、また後期計画の３年目として事業を実施しました。事業の点検・評価にあたり、各委員からは貴重なご意見等をいただきました。

総評としては、概ね良好に行われているとの評価でしたが、事業の問題点や改善点のご指摘、ご提案もございました。

今後、この課題の検討を進め、改善や工夫に取り組み、「共創・共育・共感～次代を創る“おわせ人”づくり～」にふさわしい教育行政の推進を図ってまいります。